I Kingd 5:1-14, 6:1-7, 7:1-8

5章、6章

テーマ:神殿の準備と建設

5章では、ソロモンはツロのヒラム王と、杉材と職人のためにビジネスの取引をします。イスラエルからも、３０，０００人の職人たちを招集します。

6章には、完成に7年かかった、高価で華やかな神殿の建設の詳細が書かれています。

（Ⅰ列王記5：1）「さて、ツロの王ヒラムは、ソロモンが油をそそがれ、彼の父に代わって王となったことを聞いて、自分の家来たちをソロモンのところへ遣わした。ヒラムはダビデといつも友情を保っていたからである。」

ツロの王ヒラムがこれからしようとすることは何であれ、ソロモンのためにではなく、彼のダビデ王に対する愛と評価と尊敬のためです。

（Ⅰ列王記5：2－4）「そこで、ソロモンはヒラムのもとに人をやって言わせた。『あなたがご存じのように、私の父ダビデは、彼の回りからいつも戦いをいどまれていたため、【主】が彼らを私の足の裏の下に置かれるまで、彼の神、【主】の名のために宮を建てることができませんでした。ところが、今、私の神、【主】は、周囲の者から守って、私に安息を与えてくださり、敵対する者もなく、わざわいを起こす者もありません。』」

それが世界平和であれ、人類の心の中の平和であれ、平和をお与えになることができるのは、神さまだけです。神さまだけが、人間の心に必要な休息を与えることがおできになります。だからこそ、イスラエルの民が主を王として受け入れることを拒んだとき、主はご自分の個人的でプライベートなここの招待をすることがおできになったのです。

（マタイ11：28）「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」

キリストだけが、そのような種類の休みを与えることがおできになるのです。今、神さまはソロモンに、戦火からの休息を与えられました。四方が平和でした。

（Ⅰ列王記5：5）「『今、私は、私の神、【主】の名のために宮を建てようと思っています。【主】が私の父ダビデに「わたしが、あなたの代わりに、あなたの王座に着かせるあなたの子、彼がわたしの名のために宮を建てる」と言われたとおりです。』」

宮を建てることはすべてダビデから出たことではありましたが、彼は宮を建てる事を許されませんでした。なぜなら、彼は戦いの人だったからです。

おそらく、宮を建てることに関係した背景を考えてみなければならないでしょう。人間は、歴史の始めから何かを建てる者でした。創世記4：17には、こう書かれています。

（創世記4：17）「・・・カインは町を建てていたので、自分の子の名にちなんで、その町にエノクという名をつけた。」

地球の表面には、過去の偉大な都や立派な建物の遺跡を隠す、大きな塚の痕跡が残っています。考古学者のシャベルがその深くまで入り込みました。そして、ひとつひとつの文化は、建物の高さで判断することができます。石器時代の原始人たち（もし存在していたらの話ですが）は野蛮で未開な人々だったと言う人たちがいます。彼らはものを建てることなく、ほら穴に避難していました。エジプト人も、アッシリヤ人も、ギリシャ人も、ローマ人もみんな文明的であるとされています。彼らが文明的であったことは、彼らの建築に明らかです。現代の人間は、高い文明をもっていると公言します。なぜなら、現代人は分譲住宅や、ショッピング・センターや、アパートや、高いオフィス・ビルを建ててきたからです。今日、人は自分が住み、また働くための洞窟を自分で作っています。自分で掘って巣を作るゴファー（ほりねずみ）と同じです。それ以外の時間は、人

間は高速道路をミミズのように這いまわっています。人は、ボタンを押したりスイッチを入れたりできる限り、自分は生活していると言います。それが現代人です。

（人間の歴史で）印象に残るデザインの最初の建物は神殿でした。すべての異教徒の人たちも神殿を持っていました。粗野な神殿もありました。ほかのもの、たとえばギリシャのパルテノン神殿などは、美の最高の表現でした。このすべての建物は、神さまに対する人間の巨大な反抗の記念碑であるバベルの塔から派生しました。異教の神殿は、いつでも最高の建築の表現ではありましたが、その神殿に集まった異教徒たちは、文明的な人々も、非文明的な人々も、霊的には最低のレベルでした。これらの神殿は、精巧で、大きく、華やかで、豊かで、そして印象的です。ナイル川のほとりの王たちの神殿、ニネベのアシュル、バビロンのマルドゥク、チグリス・ユーフラテスの谷のジグラット神殿、ギリシャのアテナとアテネのパルテノン、ローマ人たちのジュピター、メキシコのアズテックの宮。これらすべては、神さまに対する反抗の現われです。
「・・・彼らは神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、・・・」
彼らは何をしたのでしょう？彼らは、神殿を建てましたが、
「不滅の神の御栄えを、滅ぶべき人間や、鳥、獣、はうもののかたちに似た物と代えて」しまったのです。（ローマ1：21、23参照）

（ローマ1：21）「それゆえ、彼らは神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなりました。」
（ローマ1：23）「不滅の神の御栄えを、滅ぶべき人間や、鳥、獣、はうもののかたちに似た物と代えてしまいました。」

ひとりひとりが自分の神が住むための家を作りました。彼らはびっくり箱の中の人形のように、自分たちの神を箱の中に入れたのです。

ところが、ソロモンの建てた神殿は、聖書の中で一度も、神さまが住むための家と考えられてはいませんでした。II 歴代誌の宮の奉献のときに、ソロモンは神さまがこの場所に住まわれることはないことをとてもはっきりと述べています。

（II 歴代誌6：18）「それにしても、神ははたして人間とともに地の上に住まわれるでしょうか。実に、天も、天の天も、あなたをお入れすることはできません。まして、私の建てたこの宮など、なおさらのことです。」

もしあなたが、神殿は神さまがその中に住むために作られたのだと考えるなら、それはまったくの見当違いです。神殿は、人が神さまに近づくため、いけにえを通して神さまに届くためでした。

さて、神殿の概念と、その建設と性質に目を留めてください。これは重要なことです。

神さまはダビデに建てることをお許しにはなりませんでしたが、神殿を建てることは初め、ダビデの考えでした。I 歴代誌28：1－3に、その部分的な物語が書かれています。

（I 歴代誌28：1－3）「さて、ダビデはイスラエルのすべてのつかさ、すなわち、各部族のつかさ、王に仕える各組のつかさ、千人隊の長、百人隊の長、王とその子らが所有している財産、家畜全体の係長たち、宦官たち、勇士たち、つまり、すべての勇士をエルサレムに召集した。ダビデ王は立ち上がって、こう言った。『私の兄弟たち、私の民よ。私の言うことを聞きなさい。私は【主】の契約の箱のため、私たちの神の足台のために、安息の家を建てる志を持っていた。私は建築の用意をした。しかし、神は私に仰せられた。「あなたはわたしの名のために家を建ててはならない。あなたは戦士であって、血を流してきたからである。」』」

宮は、神さまが住まれる場所ではありませんでした。それは神さまの足台でした。

神殿を建てることは、ダビデの心にありました。神殿の設計図は、ソロモンにではなく、ダビデに与えられました。I 歴代誌28：19には、こう書かれています。

（I 歴代誌28：19）「これらすべては、私に与えられた【主】の手による書き物にある。彼は、この仕様書のすべての仕事を賢く行う。」

言い換えれば、神さまはダビデに神殿を建てることを許されませんでしたが、ダビデは神さまから神殿の青写真をいただいたのです。ダビデはこの設計図、または青写真をソロモンに与えました。

（I 歴代誌28：10－12）「『今、心に留めなさい。【主】は聖所となる宮を建てさせるため、あなたを選ばれた。勇気を出して実行しなさい。』ダビデはその子ソロモンに、玄関広間、その神殿、宝物室、屋上の間、内部屋、贖いの間などの仕様書を授けた。御霊により彼が示されていたすべてのものの仕様書であった。すなわち、【主】の宮の庭のこと、回りにあるすべての脇部屋のこと、神の宮の宝物倉のこと、聖なるささげ物の宝物倉のこと、」

ダビデは同時に、材料も集めました。

（I 歴代誌29：2）「私は全力を尽くして、私の神の宮のために用意をした。すなわち、金製品のための金、銀製品のための銀、青銅製品のための青銅、鉄製品のための鉄、木製品のための木、しまめのう、色とりどりのモルタルの石の象眼細工、あらゆる宝石、大理石をおびただしく用意した。」

ご覧のとおり、宮の着想はダビデの心の中にあったのです。ソロモンは宮の建設を実行しただけです。
ダビデが集めたすべての材料が手元にある今、実際の建物の建設に要する杉ともみの木材のために、ソロモンはツロの王ヒラムと取引をします。

（I 列王記5：8－9）「そして、ヒラムはソロモンのもとに人をやって言わせた。『あなたの申し送られたことを聞きました。私は、杉の木材ともみの木材なら、何なりとあなたのお望みどおりにいたしましょう。私のしもべたちはそれをレバノンから海へ下らせます。私はそれをいかだに組んで、海路、あなたが指定される場所まで送り、そこで、それを解かせましょう。あなたはそれを受け取ってください。それから、あなたは、私の一族に食物を与え、私の願いをかなえてください。』」
ツロからの労働者のほかに、ソロモンはイスラエル人たちからも多くの働き手を雇いました。

（I 列王記5：13－14）「ソロモン王は全イスラエルから役務者を徴用した。役務者は三万人であった。ソロモンは彼らを一か月交替で、一万人ずつレバノンに送った。すなわち、一か月はレバノンに、二か月は家にいるようにした。役務長官はアドニラムであった。」
これはものすごい企画です。神殿を建てたあと、ソロモンは続けてほかのものも建てます。彼は大きすぎる建設プロジェクトを抱え、自分の民に重税をかけました。
6章は、神殿の実際の建設の様子です。神殿が、会見の天幕の二倍の大きさであることに気づかれるでしょう。宮はもっと華やかで、精巧で、高価です。会見の天幕の質素さは失われ、これから見て行きますが、霊的な堕落が起こるように見えます。

（I 列王記6：2）「ソロモン王が【主】のために建設した神殿は、長さ六十キュビト、幅二十キュビト、高さ三十キュビトであった。」
神殿は会見の天幕の2倍の大きさではありましたが、私たちが思うよりも小さいものだったかもしれません。会見の天幕は縦30キュビト、横10キュビトであり、宮は「その高さは30キュビト」でした。（訳注：出エジプト記26：15－16「 幕屋のために、アカシヤ材で、まっすぐに立てる板を作る。板一枚の長さは十キュビト、板一枚の幅は一キュビト半。」からすると、幕屋の板一枚の長さは十キュビトで、宮の「高さ三十キュビト」が幕屋の高さの3倍と言っている次の文章はうなずけます）神殿は、幕屋以外の何ものでもない会見の天幕の3倍の高さでした。
神殿は小さいものではありましたが、宝石のようでした。ダイヤモンドは、干草の山のように大きくはありませんが、もっとうんと価値あるものです。ソロモンが建てた神殿もそうでした。

（Ⅰ列王記6：3－7）「神殿の本堂の前につく玄関は、長さが神殿の幅と同じ二十キュビト、幅が神殿の前方に十キュビトであった。神殿には格子を取りつけた窓を作った。
6:5 さらに、神殿の壁の回り、つまり、本堂と内堂の回りの神殿の壁に脇屋を建て増しし、こうして階段式の脇間を造りめぐらした。脇屋の一階は幅五キュビト、二階は幅六キュビト、三階は幅七キュビトであった。それは、神殿の外側の回りの壁に段を作り、神殿の壁を梁でささえないようにするためであった。神殿は、建てるとき、石切り場で完全に仕上げられた石で建てられたので、工事中、槌や、斧、その他、鉄の道具の音は、いっさい神殿の中では聞かれなかった。」
神殿の建設について、ひとこと言わせてください。見てきたように、この神殿は、会見の天幕の2倍の大きさでした。三方を三階建ての建物で取り囲まれていました。この3階建ての建物は、奉仕をしている間祭司たちが住んだところでした。正面には、10x20x120キュビトの柱廊玄関がありました。フットボール場の半分の長さです。青銅の祭壇は、会見の天幕の祭壇が5x5x3キュビトだったのに比べ、20x20x10キュビトの大きさでした。会見の天幕のひとつだけの燭台に代えて、10個の燭台が置かれました。供えのパンの机も、ひとつではなく10個ありました。いくつかの器具は、何倍かの数で置かれました。

建設には、30，000人のイスラエル人が使われました。彼らは仕事のために召集されたのです。それ以外に150，000人の余分な労働者たちと、3，300人の監督たちが建物の建設に使われました。ツロの王ヒラムが、材料と熟練した職人を提供しました。神殿は7年6ヶ月で完成しました。神殿は石造りで、建設の間、金槌の音は聞かれませんでした。建物にかかった費用は、約5百万ドルと見積もられます。（訳注：マギー博士の当時、日本円は1ドル360円でしたから、それで計算すると約18億円になります）宝石箱のようです。神殿には、とても印象的な二本の柱が立っていました。あとになって、その柱が何を意味するかを見ます。

私がこの詳細を示したのは、比較するためです。神殿は、本来の質もさることながら、神殿の特徴についても会見の天幕には劣っていました。

まず最初に、神殿は複雑でした。会見の天幕の質素さは失われていました。新約聖書の中では、神殿は飛び越され、会見の天幕がタイポロジー（予表）に使われています。なぜでしょう？神殿は、とても複雑になっていたからです。ここに私たちへの適用があります。私たちは、神さまのみことばよりも方法論（メソッド）に強調点が置かれる時代に生きています。教会は新しいプログラムと新しい方法論に満ちています。

私が最初にミニストリーを始めたとき、私はジョージア州の、綿畑に囲まれた赤い粘土質の丘の上の小さな白人教会を牧会しました。教会学校のために、裏にひとつだけ部屋がありました。それほど良い設備はありませんでした。教会にはセントラル・ヒーティングがありましたが、それは大きくて古いだるまストーブが、教会の真ん中（センター）にあったというだけでした。ちょっと前に、その教会の前を通りかかりました。今は、アトランタの町がその教会のまわりに大きく成長しました。今、その教会は大きなキリスト教教育課があり、すべての最新の道具がそろっています。私は、私のミニストリーの間に救われた、その教会のメンバーのひとりに訊ねました。
「今は、この教会で誰か救われる人はいますかね？」彼は言いました。
「いいえ。誰も救われませんね。」
その教会が小さな古い質素な教会だったときに、宣教地で救われたひとりの女性がいます。その教会はとても質素でしたが、人々は救われました。私は今日使われているすべての方法は好きではありません。私たちは神さまのみことばに立ち返る必要があると私は思います。

第二に気づいていただきたいのは、ソロモンが細い光の窓をこしらえたということです。会見の天幕には、窓はひとつもありませんでした。ソロモンの窓は、たいして光を入れることはありませんでしたが、それでも、少しの光は中に入れました。人々は、会見の天幕の中で神さまの光に頼っていたようにはもうそれに頼らなくなりました。彼らは外から入ってくる、自然の光に頼ったのです。

劣っていることの第三のしるしは、ケルビムがオリーブの木で作られたことです。それらは10キュビトの高さで、とても印象的でしたが、もう純金で作られてはいませんでした。

第四のことは、神殿は会見の天幕よりも華やかでけばけばしく、より多くの儀式が神殿と結びつきました。

これは、ネブカドネザルによって破壊された神殿です。ゼルバベルによって建てられた神殿も順繰りに破壊され、キリストの時代には、ヘロデの神殿が取って代わっていました。神殿は実際、主イエス・キリストを指し示しています。ヨハネの福音書2：19で、イエスさまは言われました。

（ヨハネ2：19）「・・・『この神殿をこわしてみなさい。わたしは、三日でそれを建てよう。』」

主はヘロデの神殿のことを話しておられたのではありません。主はご自分のからだのことを話しておられたのです。

（ヨハネ2：20－21）「そこで、ユダヤ人たちは言った。『この神殿は建てるのに四十六年かかりました。あなたはそれを、三日で建てるのですか。』しかし、イエスはご自分のからだの神殿のことを言われたのである。」

神殿はキリストのからだと等しいとみなされています。

この章はおもに建築の詳細の記録なので、あまり多くの引用をしませんでした。でも、読むのにはとてもおもしろいところです。神殿の荘厳さを読むときに、これは、ダビデの頭と心の中に浮かんだものであることを覚えていてください。ダビデは、契約の箱を置くのに適切な場所が欲しかったのです。（彼は、もちろん神さまの住む場所を建てようなどとは考えてもいませんでした。これはただ神さまの足台である、と彼は言いました。）神殿の目的は、いけにえによって神さまに近づく道を提供するためでした。同時に、会見の天幕と比べて、神殿がどれほど複雑か、注目してください。私は、会見の天幕についての本を書いたあと、神殿についての本も書くつもりでした。とても長く研究したあと、私は絶望して降参しました。神殿は、私たちの目の前に主イエス・キリストのすばらしいご人格を描き出すには、あまりにも複雑すぎます。でも、次の章で見て行くように、神さまはご臨在をもって神殿に敬意を表され、その場所はシェキナの栄光で満たされました。

7章

テーマ：ソロモンの建設プロジェクト

7章には、ソロモンが神殿だけでなく、自分の宮殿、レバノンの森の宮殿、そしてパロの娘のための宮殿を建てたことが書かれています。同時にこの章には、神殿の柱廊のポーチの建設、神殿のための鋳物の海、10の青銅の洗盤、そして神殿のための10の金の燭台に関する詳細も書かれています。

（I 列王記7：1）「ソロモンは自分の宮殿を建て、十三年かかって宮殿全部を完成した。」
神殿を建てるのには7年かかりましたが、自分の家を建てるのにはその約2倍の13年がかかりました。きっととても華やかな宮殿だったことでしょう。

（I 列王記7：2）「彼はレバノンの森の宮殿を建てた。その長さは百キュビト、幅は五十キュビト、高さは三十キュビトで、それは四列の杉材の柱の上にあり、その柱の上には杉材の梁があった。」
ソロモンは、レバノンの森の宮殿もたてました。これは彼のロッジ、つまり別荘でした。おそらく彼はそこに休暇に行ったのでしょう。「長さは百キュビト」であったと書かれていますが、これはフットボール・コートの長さの半分でした。幅は五十キュビト、つまり約23メートルでした。高さは三十キュビト、約14メートル。
「それは四列の杉材の柱の上にあり、その柱の上には杉材の梁があった。」
ツロの王ヒラムが石とレバノン杉の杉材を用意しました。今日はこの高い、優美な杉はほとんど残されていません。パレスチナを含め、レバノンの国もすべて裸にされてしまいました。見たところ、一時は樹木が深々と茂っていたようです。

（I 列王記7：8）「彼の住む家は、その広間のうしろの庭にあり、同じ造作であった。また、ソロモンは、彼がめとったパロの娘のためにも、この広間と同じような家を建てた。」

「同じ造作であった」とは、その家もまた、華やかで精巧だったことを示しています。彼はパロの娘のためにも家を建てました。彼は彼女を気に入っていたようです。同じような宮殿をひとりひとりの妻のために建てることはできませんでした。もし建てていたら、彼は1000もの宮殿を建てていたことでしょう！ そうなったら、政府の住宅プロジェクトのように、肝を潰すような建設プロジェクトになったことでしょう。